特定非営利活動法人　日本市民スポーツ海外交流協会
令和７年度 第４回理事会　議事録

1.開催日時　　令和７年８月25日　午後6:15～午後7:15
2.開催場所　　ＺＯＯＭ会議
3.理事総数　　11名
4.出席者数　　６名（書面表決書２名）
出席者（前河洋一、山西哲郎、小林均、保原幸夫、山本正彦、清水泰生 敬称略）
書面表決書（鈴木良雄、岩山海渡 敬称略）
5.議長選任　　議長として前河洋一氏が選出された。

6.議事の経過の概要および議決の結果

第１号議案　　前回理事会（7月31日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったので承認されたものとする旨報告があった。

第２号議案　　議事録署名人の指名について
議事録署名人として小林均氏と保原幸夫氏が選出された。

第３号議案　　創立20周年記念事業について
実施計画を作成するにあたって山本、小林、保原各理事から提出された提案・意見に基づいて前河理事長が作成したミーティング資料に沿って話し合いを行った。
＜開催のコンセプト＞
　アメリカでランニングブームとなった1970年代前半、日本で「市民ランナー」という概念を生み、ランニングの普及を始めた山西先生。現役選手としてオリンピックや国際舞台で戦っていたマラソンの宇佐美先生。ブームの少し前にアフリカ勢が台頭してきたメキシコオリンピックを経験し、長距離の勢力地図の変化を目のあたりにした澤木先生。
　それぞれのランニングスタイルや指導スタイルを擁立し、今日のランニング界に多大なる影響を及ぼし、その後もランニングやマラソンと関わりながら（むしろメインとして）幅広く国内のランニングを牽引してこられたランニング界３名のレジェンド。
　国際事情と対比させながら、これまでとこれからについて議論し、未来への提言を導き出したい。
＜開催日時・場所・参加者など＞
　収支を踏まえた集客の観点から、シンポジウムの単独開催は難しいと考えられるので、ランニング学会大会に合わせて開催させてもらうべくランニング学会大会実行委員会に下記のようなシンポジウムについての提案を行った。
　“「ランニング・マラソン界の今昔物語」のようなイメージで、同じ年にそれぞれの所属大学で箱根駅伝を走っている同年代の３人のレジェンド、山西、宇佐美、澤木。卒業後はいずれも指導者として、市民ランナーへのランニング普及、オリンピックのマラソン代表、箱根駅伝優勝チーム指導など、ランニング界の異なる分野で尽力されてきました。異なる

視点でランニングと向き合いながら、今日のランニング・マラソン界を築き、支えてこられたレジェンドから過去を振り返り分析しながら今後に向けた提言をいただく。”

学会大会は3/14、3/15開催で準備が進められているので、開催が可能になれば、それに合わせて準備をすることになる。当初は、まず東京で開催してできれば大阪のランニング学会でもと考えていたが、集客活動を含めた準備期間を考慮すると学会大会で最初に開催するのが現実的であると思う。その場合、山本理事から提案があった東京マラソンEXPOの学会ブースでの集客活動も可能になると考えられるし、その後の東京開催には開催結果を反映させることができるだろう。

＜今後の活動と展開＞

創立20周年記念事業としてのシンポジウム開催を検討しているが、その議論の中で単独開催の難しさを実感させられている。当面のシンポジウムはランニング学会に連携・共催を依頼しようということになっているが、今後の事業についても連携先を開拓していく必要があるだろうとのことで、前河理事長関連の「新潟アルビレックス」「アクアラインマラソン大会」などが候補として揚げられた。

今回のシンポジウムのＰＲ活動はもとより、連携依頼にあたっては当協会の立ち位置や活動内容の説明が必要になる。そういう意味合いもあって、シンポジウムの基調講演として協会設立の想いを山西前理事長にお話しいただきたいとの提案が保原氏からあった。

当協会の目的は“より多くの市民がスポーツを通じて世界の人々や地域と交流を図ること”である。今後の活動としてはランニング以外にも広がりを持たせる必要があるとの意見があり、山本氏からはノルディックウォーキング関連イベントについて紹介があった。保原氏からは、当協会設立のきっかけとなったクリケットがロサンゼルスオリンピックの正式種目となった事で栃木の佐野市が盛り上がっているとの事なので何らかの形で関わりを持てないのかとの話も出た。また、国際交流を推進するためには旅行会社との連携が有効なのではないかとの意見があり、前河理事長の高校の先輩が社長をやっている阪急交通社にあたってみることになった。

＜20周年記念事業計画の今後の進め方＞

まずは共催を提案しているランニング学会大会での開催可否を確認し、開催できることになった場合は、前河理事長に理事の皆さんから提案された内容を集約した形でのシンポジウム・ストーリー案を作成していただき、理事会で実施要項を固めると共に集客活動計画を作成する。さらに学会大会後には、実施結果を踏まえて東京開催の実施要項を作成する。

ランニング学会大会での開催ができなかった場合でも、東京開催ができるようにシンポジウム案を作成すると共に、共催をして貰える連携先を探索・打診することにする。
連携先によっては、シンポジウムにこだわらず企画することも念頭に入れる。
連携先がマラソン大会であれば、以前に北海道マラソンでやっていたような直前セミナーなどが考えられるので、とりあえず、前河理事長が関連している来年度のアクアラインマラソンの事務局に打診してみることになった。

いずれにしても、記念事業を会員増加に繋げられるような機会にしなければいけないと考えている。

＜山西先生のコメント＞

皆さんの話を聞いて感じたのは、スポーツ人生の見直しが必要なのではないかという。私がそのことについて気付かされたのは、オーストラリアのクリケット指導者と話しをしていた時に、あなたは何種目のスポーツをしているのかと聞かれて1つか2つと答えた時に、それはクレージーだよと言われました。その理由は、スポーツはもっと幅広く楽しむもので、そんな少ない種目の実践では本当の楽しさを見つけることはできないということでした。それ以降はスポーツの多様性というものを絶えず考えるようになりました。この協会で活動している人はランニング・陸上競技の関係者が多いので、どうしてもランニングに関した活動が多くなりがちなのですが、できればもっと幅広い取り組みができれば、この協会の活動が社会的にも認知度や理解度が深まるのではないかと感じます。私自身もそれについては反省しているところです。今回、私を含めて3名での鼎談が計画されていますが、気を付けないと単なる老人の昔話になってしまいます。3名の活動歴に共通している事、そして違っていることを整理しながらスポーツの多様性について話しをしたいと考えています。それはこの協会が当初から目指していたところとも繋がります。

第4号議案　その他

■次回理事会について

ランニング学会大会でのシンポジウム開催可否が確認でき、前河理事長のシンポジウム・ストーリー案ができた時点で開催することになった。

したがって、開催日時については前河理事長の指示を待つことになった。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後7時15分に議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和7年8月25日

特定非営利活動法人　日本市民スポーツ海外交流協会

議　　長　前河洋一 印

議事録署名人　小林均 印

議事録署名人　保原幸夫 印